

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2019年 2月 14日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
会長 喜多悦子殿

2018年度地域啓発活動助成

活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

緩和ケア地域連携推進の為の多職種カンファレンスの開催

活動団体名：

活動者（助成申請者）名： 富山市立富山市民病院緩和ケア内科 船木 康二郎

I 活動の目的

富山市とその周辺では、各医療機関での緩和ケアの提供や緩和ケアスクリーニング、早期からの緩和ケアなどが活発に行われるようになってきており、また在宅緩和ケアについても在宅療養支援診療所の増加や在宅緩和ケアに特化した診療所の開設や介護施設、訪問看護ステーションでの緩和ケア活動も活発になってきている。しかし各施設やグループでの活動が主である場合が多く、地域としての連携が十分ではないのが現状である。

2016年度に笹川記念保健協力財団の地域啓発活動助成を受け『緩和ケア地域連携推進の為の多職種カンファレンスの開催』というテーマのもと、様々な施設・職種の医療従事者を対象に『富山緩和ケア地域連携ワークショップ』を開催し、89名の参加者が集まり講演と自由討論を行い、富山の緩和ケアの取り組みや地域連携についてディスカッションを行った。カンファレンスでは様々な意見が出され当地域の現状を共有する、という目的に沿った内容になったと考えている。開催により一定の成果は得られたが、もう一つの目的である今後の地域での緩和ケアの連携強化のために行うべきことを考える、という点は具体的な内容までは深く話し合えず、そのことが今後の課題であると考えた。

今回も前回と同様『緩和ケア地域連携推進の為の多職種カンファレンスの開催』というテーマで今後の地域での緩和ケアの連携強化のために行うべきことを考える、ということを目的とし、今後の緩和ケア地域連携のための具体的な活動の第一歩となるような内容を話し合うためのワークショップを開催した。

II 活動の内容・実施経過

ワークショップの準備として当地域の緩和ケア地域連携の現状の把握を目的として、地域の医療・介護スタッフに対してアンケート調査を行った。

そのアンケート結果を参考資料として、今後の緩和ケア地域連携のための具体的な活動について話し合うためのワークショップを開催した。

【 緩和ケア地域連携に関するアンケート 】

アンケート配布期間：富山県内の医療・介護機関・調剤薬局 456 施設

アンケート方法：アンケート用紙を郵送し、回答の上郵送で返信してもらう

返信：278 通

【 平成 30 年度富山緩和ケア地域連携ワークショップ 】

日時：平成 31 年 1 月 30 日（水）18:30-20:30

場所：富山県民会館 3F 304 号室

対象者：富山地区またはその周辺地域の緩和ケア地域連携に興味のある医療従事者

参加費：無料

プログラム

- ・アンケート結果報告

事前に行った緩和ケア地域連携についてのアンケートの結果の報告。

- ・グループディスカッション

事前アンケートの結果をもとにグループに分かれて緩和ケア地域連携についてのディスカッション

- ・グループ発表

グループ毎にディスカッションの内容について発表。

- ・まとめ

今後の緩和ケア地域連携についての全体討論。

Ⅲ 活動の成果

【 緩和ケア地域連携に関するアンケート 】

- ・アンケート期間：平成31年1月11日から24日
 - ・配布機関：富山県内の医療・介護機関・調剤薬局 456 施設 520 通
 - ・返信： 278 通（回収率 53.5%）
- （資料①）

【 平成30年度富山緩和ケア地域連携ワークショップ 】

地域の医療・介護従事者 45 名が参加

始めに事前アンケート結果についてスライド・配布資料を用いて説明を行った。

その後 6 グループに分かれてグループディスカッションを行った。

グループディスカッションで

- ①自己紹介
- ②富山の緩和ケア地域連携について
（できていること、できていないこと、自分の周囲のことなど）
自由に意見を出し合う。
- ③今後の富山の緩和ケア地域連携のために
・いつまでに ・だれが ・どのようなことをするか
を話し合う

という内容で約 40 分間話し合い模造紙に話し合った内容を記載してもらった。

その後各グループに発表してもらい、その発表を元に今後緩和ケア地域連携のために具体的に誰がどのような活動をするかという事を話し合った。

各グループで今後の緩和ケア地域連携のための具体的な活動内容を考え、それを元に全体で話し合い以下の 6 の提言が行われた。（詳細は資料②）

- ①ケアマネジャーとの連携・レベルアップを図る
- ②小規模病院の医師と緩和ケア専門医との連携ができると良い
- ③百間は一見に如かずプロジェクト 緩和をあたりまえにしよう
- ④来年までに船木先生が実際の患者さんのケースについて多職種で勉強会をする！！
- ⑤今年中に一般市民に向けた働きかけを行う
- ⑥来年までに看取りで選ばれる施設に！！

ワークショップ開催後、参加者にアンケートを行った。（資料③）

IV 今後の課題

今回のワークショップで、開催の目的である、今後の地域での緩和ケアの連携強化のために行うべきことを考える、ということは達成できたと考える。

今回のワークショップは開催することが目的ではなく、開催して今後行うことを考え、それに基づいた活動を行うという事が最終的な目標であるため、今後6グループからでた提言を具体的に進めていくことが肝心と考える。

今回でた提言だけでなく、今後も地域で緩和ケア地域連携に関する活動を行いたいと考えており、同じようなワークショップを行ったり今回の活動の報告を参加者だけでなく地域にも発信して当地域の緩和ケア地域連携の強化に努めていくことが必要だと考える。

V 活動の成果等の公表予定（学会、雑誌）

今回のワークショップの事前アンケートで当地域の緩和ケア地域連携についての現状が把握できた。このアンケート結果はワークショップの資料として準備したものであるが、結果は当地域の現状を表した価値のあるものであると考えられ、アンケート結果の更なる分析を行い学会発表や論文発表などしたいと考える。

今回のワークショップで出された課題とその結果を受けた具体的な活動について、地域の医療従事者に向けて発信して協力して活動の範囲を広げていきたい。

今後今回のワークショップで出た課題に対して具体的に活動を行っていき、その成果について学会発表や論文発表をしたいと考える。

富山緩和ケア地域連携ワークショップ アンケート結果

I. あなた自身についてお答えください

1. 年齢

年齢	(名)
無回答	0
20歳代	11
30歳代	44
40歳代	87
50歳代	82
60歳代	56

2. 性別

性別	(名)
無回答	2
男性	94
女性	184

3. 所属

所属	(名)
無回答	1
病院	76
診療所	67
訪問看護ステーション	49
調剤薬局	41
居宅介護支援事業所	2
地域包括支援センター	24
介護サービス事業所	2
入所施設	17
その他	1

4. 職種

職種	(名)
無回答	0
医師	69
看護師	119
薬剤師	47
リハビリテーション専門職	1
栄養士	2
介護支援専門員	11
社会福祉士	15
介護士	3
その他	7

5. 臨床経験年数

臨床経験年数	(名)
無回答	4
5年未満	25
5年以上 10年未満	25
10年以上 15年未満	39
15年以上 20年未満	41
20年以上 30年未満	71
30年以上	75

6. 日常業務において緩和ケアに従事する割合

日常業務において緩和ケアに従事する割合	(名)
無回答	7
10%未満	191
10%以上 30%未満	36
30%以上 50%未満	12
50%以上 70%未満	8
70%以上 90%未満	9
90%以上	16

II. あなたの施設の地域連携の現状についてお答えください

1. 過去一年間で、あなたの施設で死亡3か月前から死亡までのいずれかの時期に関わった患者（悪性疾患の有無に関わらず）は何名ですか、またその内看取りまで関わった患者は何名ですか。

死亡3か月前から死亡までに関わった患者

死亡3か月前から死亡まで	
無回答	9
0人	50
1～5人	107
6～10人	31
11～20人	32
21～30人	9
31～50人	18
51人以上	24

その内看取りまで関わった患者

その内看取りまで	
無回答	10
0人	98
1～5人	87
6～10人	38
11～20人	15
21～30人	13
31～50人	4
51人以上	15

2. 過去一年間で、あなたの施設で関わった悪性腫瘍患者は何名ですか。

悪性腫瘍患者	(名)
無回答	15
0人	32
1～5人	75
6～10人	39
11～20人	42
21～30人	15
31～50人	15
51人以上	44

3. 過去一年間で、他の医療・介護機関からあなたの施設に紹介となった、死亡前3か月以内の患者は何名ですか。

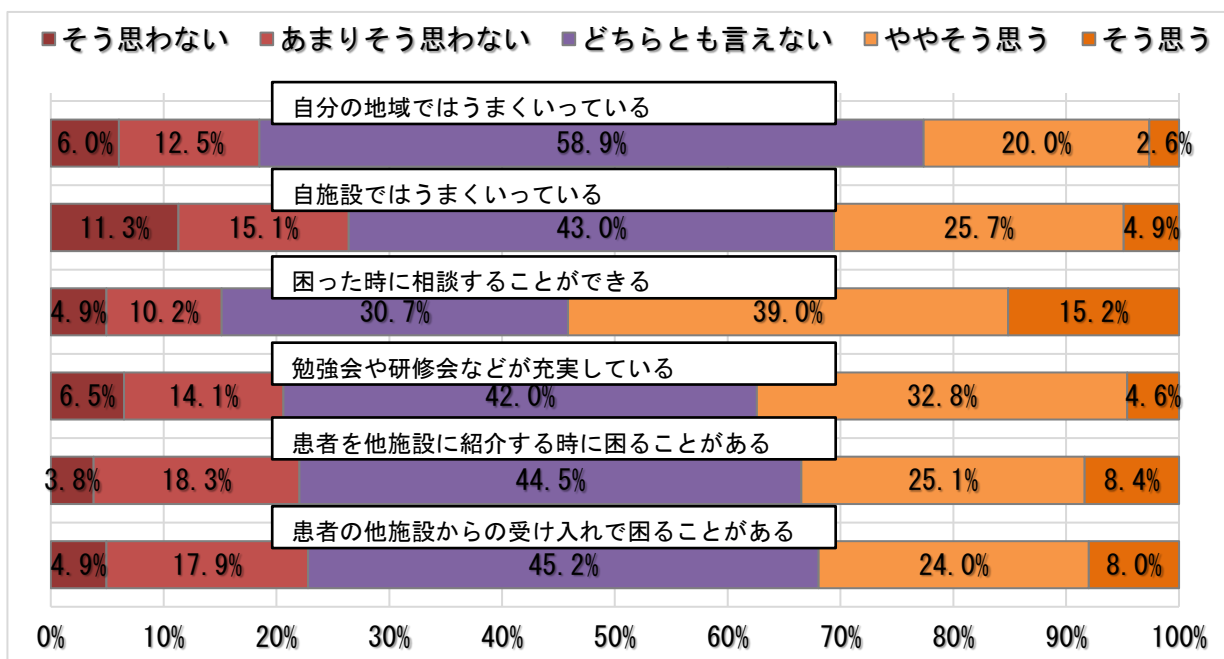
他の医療・介護機関からあなたの施設に紹介	(名)
無回答	12
0人	99
1～5人	92
6～10人	16
11～20人	15
21～30人	9
31～50人	18
51人以上	15

4. 過去一年間で、あなたの施設から他の医療・介護機関に紹介を行った、死亡前3か月以内の患者は何名ですか

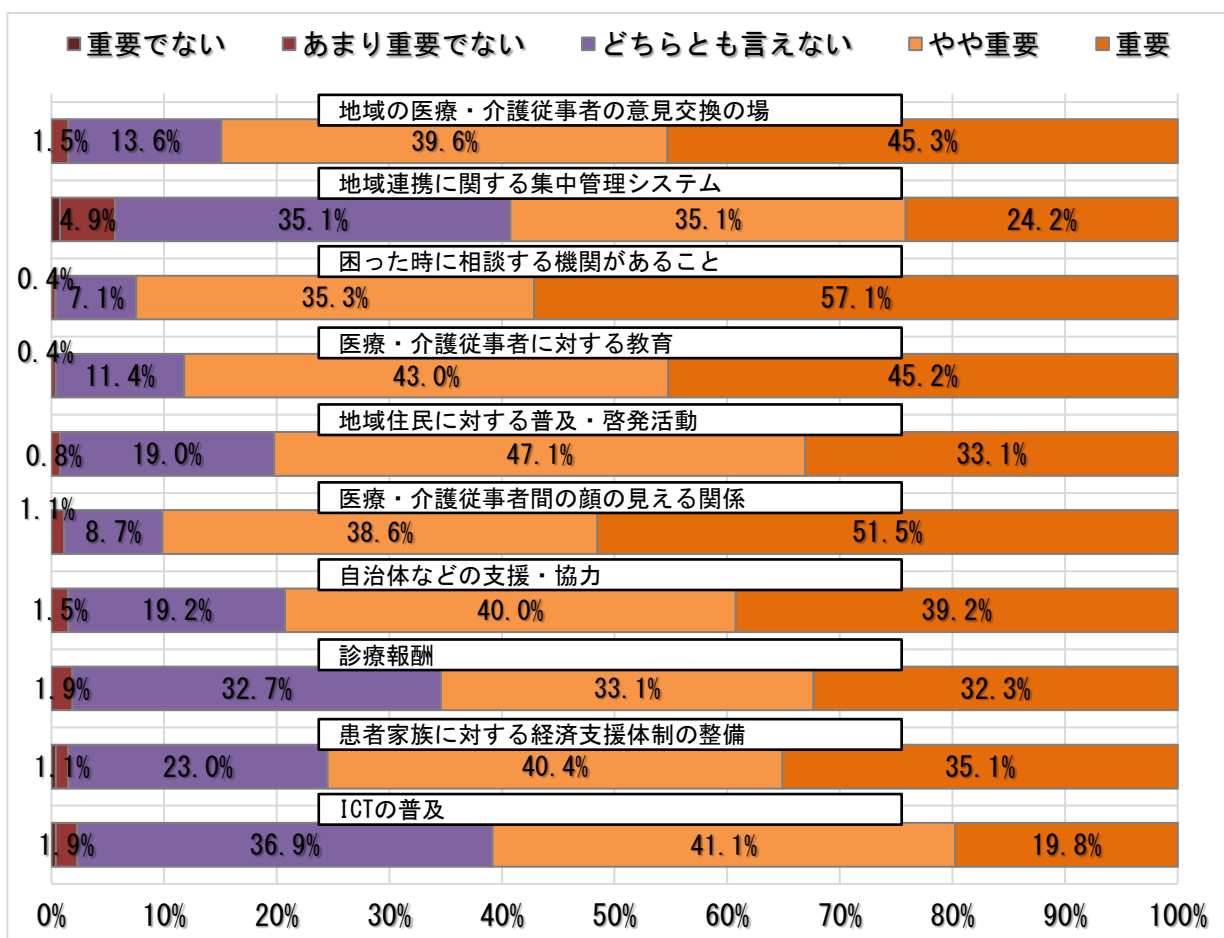
あなたの施設から他の医療・介護機関に紹介	(名)
無回答	19
0人	93
1～5人	96
6～10人	21
11～20人	23
21～30人	10
31～50人	0
51人以上	14

Ⅲ. 緩和ケア地域連携について

1. 緩和ケア地域連携について以下の質問にお答えください。



2. 今後緩和ケア地域連携を進めていく上で以下の項目はどれくらい重要だと思いますか。

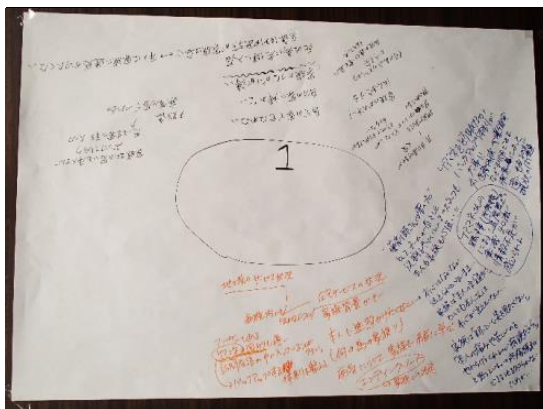


グループディスカッションの結果

1 グループ

提言

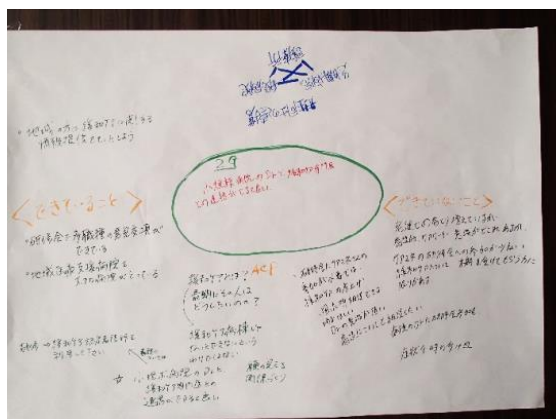
ケアマネージャーとの連携・レベルアップを図る



2 グループ

提言

小規模病院の医師と緩和ケア専門医との連携ができると良い。



3 グループ

提言

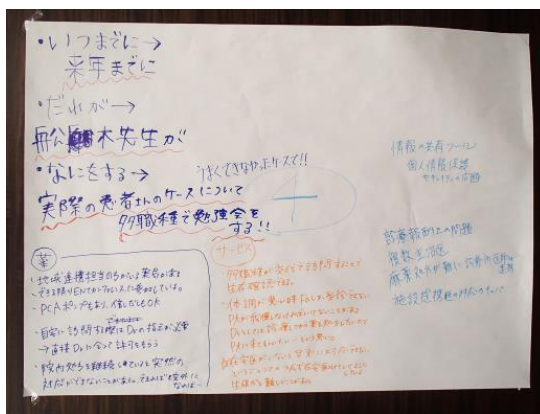
百間は一見に如かずプロジェクト
緩和をあたりまえにしよう
研修、実習受け入れ
在宅⇔病院



4 グループ

提言

来年までに船木先生が実際の患者さんのケースについて多職種で勉強会をする！！



5 グループ

提言

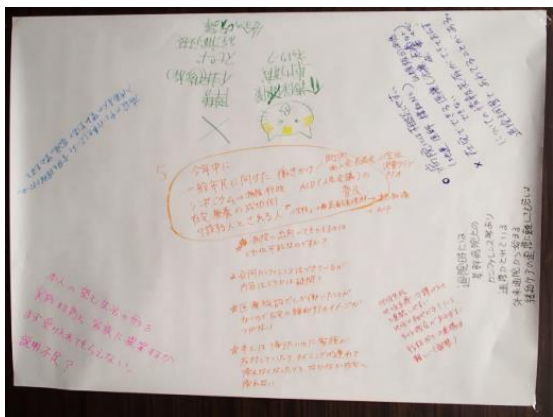
・今年中に一般市民に向けた働きかけ（町内・老人会・長寿会・小学校・児童クラブ・PTA）

- ・シンポジウム→病院・行政
- ・在宅療養の成功例
- ・介護する人とされる人「小学校」

→高齢者理解→認知症→ACP

- ・ACP の普及

マスコミ（新聞・テレビ・ラジオ）での広報



6 グループ

提言

・来年までに看取りで選ばれる施設に！！
私と看護師長で体制づくりをします。

シルバーケア栗山 二村将臣さん



富山緩和ケア地域連携ワークショップ 開催後アンケート結果

アンケート回答：40名

年齢	(名)
記載なし	1
20歳代	0
30歳代	13
40歳代	8
50歳代	15
60歳以上	3

性別	(名)
記載なし	3
男性	9
女性	28

所属	(名)
記載なし	0
病院	18
診療所	5
訪問看護ステーション	4
調剤薬局	5
居宅介護支援事業所	1
地域包括支援センター	3
介護サービス事業所	2
入所施設	2
その他	0

職種	(名)
記載なし	1
医師	6
看護師	20
薬剤師	4
リハビリテーション専門職	0
栄養士	1
介護支援専門員	3
社会福祉士	3
介護士	0
その他	1

ワークショップの内容について	(名)
記載なし	1
良くなかった	0
あまり良くなかった	0
良かった	13
とても良かった	26

ワークショップに対する意見・感想

今後の緩和ケア地域連携がさらに地域に根ざしていくように感じました。具体的な案が出た中で実行につながると良いと思います。

多職種で話すことで気づくことが多かった。グループで話し合う時間が長く、充実した話し合いになったと思う。

こういう会、グループディスカッションはしょっちゅうやっていますが、いつも、action に結びつかず残念に思っていました。Action につなげるファシリテーションに交換をもちました。何かできそうですね。

医療関係者の方々との連携を深めることが出来とても有意義なワークショップに参加させて頂きありがとうございました。

ぜひ、笹川財団の協力を得て、実現可能なことをしてほしい。

薬局の方の話をきけてよかったです。

色々な職種の方の話を聞く事ができてよかった。

楽しく話できました

老健でできる事、特に薬に関しては制約が大きくあります。内服処方は全て施設負担の現状、運営する以上、コスト面はシビアになっています。しかし在宅復帰、見取りは老健に期たいされている面であり加算にも表れています。

具体的に定めた目標、ぜひ実現できること、期待します。

多職種で話をする機会になりとても良かったです。顔の見える関係作りができたと思いました。

大変勉強になりました。有難うございました。緩和ケアを行うにあたり、自身が何をすべきか、どうしたらよいのか等、色々と考えさせて頂きました。

楽しかったです

多職種の方々とお話ができて、非常に参考になることがありました。

日頃、回りハでSWしておりますが、とても刺激的な時間でした。

療養型病院での現状ももっと知りたいと思いました。

具体的な1歩について報告会を期待します。

テーマがざっくりすぎて、まとめにくかったです。

思ってた以上に楽しかったです。

施設での緩和はいろいろ史払いがありますね。老健：薬がまるめのため、高い薬が使えない。特老：しょくたく医は、診療報酬がつかない。癌末期には、他院から訪問診療できる事が知られていない。

色々な職種でそれぞれ悩みや葛藤があることがわかり、色んな場面の話を色んな視点で意見を出し合える場が大切かなと思いました。

いろいろな課題が明るみになってよかった。「連けいについて」のテーマのワークショップは新しかった。結局、皆でよもやま話をするよい機会になった。

病院だけでなく施設等の悩みなどを理解できた

多職種の方が緩和についてどのようなことを考えているのかが聞けてよかったです。緩和ケアについて自分も努力していかなければならないと考えさせられました。

他職種の方と色々な話ができてよかった。

様々な意見が聞けて良かったです。

他の職種や病院の方の意見や考えを聞くことができてよかった

色々な意見が聞けて良かったです。地域の連けいをもっと取れるようになると思います。

様々な職種の方のご意見を聴かせていただき良かったです。

多職種間の情報交換ができて勉強になりました。

たくさんの意見が聞けて良かった。「顔の見える」お互いチームとしての役割を考えて、「患者、家族のため」に頑張りたいと思いました。

多職種の立場からいろいろなお話がきけました。立ち位置が変わると景色が変わると思いました。

今後の希望や緩和ケア地域連携に対する自由記載

時間配分も良かったと思います。多職種の顔が見える関係を作りやすいと思いました。

とりあえずはみんなの連絡先を共有するなど

病院からではなく在宅からの問い合わせがある時の窓口が外来か、地連かわからない大きい病院が多くて悩みます

テーマをしぼって、何回かにわけて、問題点を深めていくことがだいじなのかなと思いました。

緩和ケア病棟はどのような人が対象なんですか？どうやってつながることができるのですか？がんと診断されただけでは無縁ですか？在宅ではどんな治療や過ごし方ができるのですか？いろいろ知りたいです。

この様な研修会で顔の見える関係をつくっていくことが大切。お互いに相談しやすい関係となるためにも。

今回のように次に具体的なアクションが話されることが良いと思いました。

自分の足元を整えること地域を見ること動向を見ることが大切だ。何とかやっついていかないと。

今回のように次に具体的なアクションが話されることが良いと思いました。多職種の方とたくさん話ができる機会をたくさん設けていただきたいです。

在宅での実際をもっと病院や施設のスタッフが知る、見る、感じることができれば、更に地域連携が進むのではないかと思います。

相談の場があるのは心強いです。ぜひ作ってください。

薬剤師さんのお話がとても新鮮で在宅での活躍、役割を院内で伝えられるような機会が必要だと思いました。
